

令和6年度 施設関係者評価事業 報告書

愛真幼稚園

令和6年度の課題

- ①子どもたちが喜んで園生活を送る ②遊びを中心とした充実した保育の展開 ③家庭と地域との連携

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					コメント		
		基準	職員の目標	取組結果	基準	子どもの姿	成果	総括評価	評価に関する意見等
子ども園生活を送る	子どもたちが安心して園生活を送るための環境づくり	4	キリスト教保育について知る	3.6	4	感謝の気持ちをもてるようになる	3.8	3.7	「子どもたちが喜んで園生活を送る」ことを重点目標として取り組みだして2年がすぎ、日々の幼稚園生活の中で職員自身が目標項目にあることが当たり前の事として身につけてきたのではないかと。毎日、礼拝を行う中で、神様や感謝することが身近なものになり、子どもたちの中からも「神様にお祈りしよう」「守ってくれるよね」などの言葉を聞くことが多くあった。
		3	礼拝を大切に作る		3	神様に守られていると感じる			
		2	日々の恵みに気づき、言葉にする		2	お祈りの時間に参加する			
		1	子どもたち一人ひとりの名前を呼んで挨拶する		1	喜んで一人ひとりが登園してくる			
あそびを中心とした充実した保育の展開	総幼研保育の実施によって子どもたちが自信を持つ	4	子どもの「個」を見るのではなく、集団の活力を引き出す	3.8	4	みんなと力を合わせて挑戦する	3.5	3.7	未満児クラスでは、まだ言葉がたどたどしい園児が多い中で日課活動が始まったが、毎日継続していく中で、ことば、リズム、テンポを体得しながら成長していく子どもたちの姿があった。保育士も新鮮な感動と喜びを感じながら子どもたちと関わることができた。子どもたちにも楽しみながら集団の活力が醸成されていく姿を年度末に見ることができた。
		3	子どもたちを承認しながら、充実した時間を過ごす		3	できたことに喜びを感じ、自信を持つ			
		2	遊びであることを意識し、楽しむ		2	やってみようという気持ちを持ち、楽しんで参加する			
		1	毎日同じ活動を継続的・反復的に行う		1	保育者と一緒に生活していく中で安心感を持つ			
	いろいろな体験を通して自己発揮をする	4	クラス活動の中で、興味・関心に応じて、環境を準備する	3.8	4	環境としておかれたものからイメージを広げ、自分達でアイデアを広げて遊びを楽しむようになる	3.5	3.7	学年で保育計画の相談を密に行いながら、製作活動の中で設定保育ばかりでなく、子どもたちが自ら素材を持ち込み、想像しイメージを形にしていけることができる環境づくりを実践することができた。子どもたちがそれぞれの興味をもって、集中して楽しんでいる姿が見られ、新しい発見があった。また、中には保育計画が実践にいたらない現状もあったが、次につなげていきたいという学年もあった。
		3	不思議さを感じるものや身近なものなどで興味を引く環境づくりをする		3	興味を持ったことに、触れたり試したりする中で表現する楽しさを知る			
		2	子どもたちと関わる中で、一人ひとりの内面を理解する		2	友だちと気持ちを出し合いながら遊ぶようになる			
		1	職員間で保育計画を共有する		1	好きな遊びを見つけて集中して遊ぶようになる			
家庭と地域との連携	家庭との連携を密にする	4	子どものよさや変容などを保護者に伝え、成長を実感し合う	3.8	4	保護者が子どもたちの姿を前向きに捉え、子どもの育ちに気づき、保育者に伝える	3.8	3.8	コロナ禍を経て、保護者参加型の活動が増えたことで保護者の方向士の交流の機会を喜ぶ声が多く届いた。保育参観の親子製作の場がきっかけとなり、その後保護者同士が交流する姿が多く見受けられ、園と家庭、家庭と家庭がつながることを感じる。引き続き、保護者の方からの信頼を得られる園づくりを目指していきたいと話し合う。
		3	保護者同士が交流できる場や機会を設ける		3	保護者と園が共通認識をもち、信頼されるようになる			
		2	園行事の発信を工夫し、積極的な参加につなげる		2	保育者は保護者の悩み等をよく聞き、子どもの成長を支え合う			
		1	家庭や園での子どもの様子を伝え合う		1	保育者は保護者の気持ちになって子どもの育ちを伝えるようになる			
	地域との連携を密にする	4	地域人材や場の活用、交流を図る	3.8	4	家庭でも地域との関わりを話そうとする	3.6	3.7	「地域」を意識することで保育士自身の視野が広がった。身近にある保育園やお弁当屋さんやゴミ回収の方など園外から出入りしてくださる方も地域とつながりを持つこともできた。花の日を貴重な地域交流ができる機会と職員が前向きにとらえることで、新たな気持ちで子どもたちに係ることができた。そのため子どもたち自身が地域の方々に感謝し、喜び合える交流ができたのではないかと。また積極的に園外保育を実施した学年もあったが、低学年は天気などに左右されることが多くあったため、園外にできることが少なかった。園外へ行ったかどうかの結果を求めただけではなく、その意識を持ち続けることが大切。職員間の共有を密に図りながら安全を確保し実践していきたいと意欲的な意見も出た。
		3	職員間で情報共有をする		3	子どもたちと思いを伝え合い、地域への関心が高まる			
		2	園外保育を計画し、実行する		2	地域の豊かな自然に気づく			
		1	年間行事を活用して、地域の方と触れ合う機会を作る		1	保育者と一緒に地域の方との関わりが増える			

施設関係者評価委員の方々の総評

- ・この変動の激しい時代において、目の前にいる子どもたちにとって「最善+最適+最良の保育とは」を常に考え、行動しつづけている現場の先生方のあり方に感銘を受けた。愛真幼稚園内で見た子どもたちは温かく見守っておられる先生方のもと、とても生き生きと、そして楽しそうに過ごしておられた。未来を創っていく宝物である子ども達が大切に心身ともに成長できる安心+安全な場がここにあると感じた。
- ・毎日の日課に取り組む姿は、半年前の見学時と比べて堂々と成長していた。日々の流れに取り組むことの大切さを感じる。社会の流れから「孤立させない」「主体性」が大切。小学校や様々な年代の方との交流も含め地域との交流は今後も続けてほしい。
- ・園内がとても美しく整理整頓されていた。年長さんがドッチボール大会の際、勝つ為の指導助言を発言して驚いた。園児の眼差しが生き生きとしていて素敵な成長を見学する事ができた。
- ・様々な行事への園児、先生方の取り組み方に感動した。一斉保育、自由保育についても”ルール上の自由”が大人になってからも必要だと思うので、それに向けた施策を園、家庭で考えていきたい。

令和7年度の課題

①子どもも保護者も安心できる園づくり

①の重点目標は一昨年度から引き続きであるが、「子どもが安心して幼稚園生活を送るための環境づくり」「保護者との信頼関係を築く」を評価項目とした。子どもたちが喜んで幼稚園生活を送ることが保護者の安心につながり、相互理解をしていく上で大切な前提条件なのではないかと、という認識のもとに職員の評価指標及び評価結果を話し合った。

②充実した保育の展開

②昨年度から引き続き取り組む

③地域との連携

③の重点目標の評価項目として「地域との連携を密にする」と「近隣の小学校と交流をする」の2項目とした。

地域の中に幼少連携を視野に入れることで、職員の長期的かつ継続的に子どもの発達と成長を考察する視点が生まれてくるのではないかと話し合った。